

東京スカイツリーや両国国技館のある私の町は、年間7000万人もの観光客を迎えており、とても賑いがある町だ。

そんな私の町の自治体は、「健康寿命を延ばし、誰一人取り残さない『健康寿命日本一のまち』の実現」を掲げており、地域包括ケアシステムの細かい目標まで設定し、区民に公表している。

しかし、健康寿命の長さは都内一まで程遠いのが現状である。東京都23区内の中でも、女性が21位、男性が18位。また、特定健康診査受診率は48.6%と目標の60%超えを下回っている。健康寿命日本一のまちにするためには、健康や医療に対する関心を他の自治体よりも高める必要がある。論文によると、健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力である「ヘルスリテラシー」において、日本は海外よりも水準が低くなっており、自身の健康の価値や必要性を感じているが、自分で行動を起こしていないという実態が明らかになっている。区民のヘルスリテラシーを向上させ、幼い頃から健康診断に行く意義を理解させることで、40歳から75歳になった時の特定健康診査の受診率が上がると考える。

そこで、墨田区ならではの「健康診断フェス」を開催することを提案する。年に数回、両国国技館やスカイツリー展望台、隅田川を周遊する屋形船、水陸両用バスのスカイダックなどの観光スポットで子どもから高齢者まで健康診断が行える日を作る。今流行りの肉フェスや焼き芋フェスのようにお祭りとして盛り上げれば、若者のSNSによる宣伝効果も期待できるだろう。身長・体重測定や視力および聴力の測定、血圧の測定などの比較的簡単にできる健康診断だけでなく「力士のストレッチ特別講座」や「健康ちゃんこ試食会」、「医師30人と行く屋形船トークツアー」などのイベントや、特典として開催場所の入場割引券配布も一緒に行う。割引券配布は観光スポットへの入場者数増加を促し、地域のさらなる活性化に繋がるのが期待できる。また、離れた開催場所4箇所をウォークラリーのポイントとすることで、既存のウォーキングプログラムの活性化にも繋がるのが期待できる。

「面倒くさいから」「時間がないから」という人でも、魅力のある健康診断があれば積極的に健康診断を受けるようになるだろうと考える。開催場所やSNS映え、イベントに魅力を感じて漠然と参加した人でも、自分の健康状態が数値となって手元に帰ってきたら、以前よりは健康、医療を身近に感じるのではないだろうか。

人生100年時代が見込まれる世の中だが、平均寿命ではなく健康寿命が伸びることに意味があると思う。制限のない日常をできるだけ長く過ごすためには、こまめな検診が必要である。行くのが面倒くさい健康診断から、ちょっと行ってみようと思える魅力のある「健康診断フェス」を開催することで、誰一人取り残さない健康寿命日本一のまちに近づけると考える。(1193字)